

水稻新品種「なつなたより」について

森谷國男・¹⁾岩下友記・寶満正治・²⁾東 正昭・矢頭 治・長谷 健・³⁾山川恵久
⁴⁾新屋 明・町田道正・⁵⁾福井清美・小牧有三・森浩一郎・軽部 稔・土井 修

(鹿児島県農業試験場・¹⁾フローラ鹿児島・²⁾東北農業試験場
³⁾鹿児島県農政部・⁴⁾鹿児島県農林技術協会・⁵⁾北陸農業試験場)

Kunio MORIYA, Tomoki IWASHITA, Masaharu HOMAN, Tadaaki HIGASHI, Osamu YATOU
 Takeshi NAGATANI, Yoshihisa YAMAKAWA, Akira SHINYA, Michimasa MACHIDA
 Kiyomi FUKUI, Yuzo KOMAKI, Koichiro MORI, Minoru KARUBE and Osamu DOI :
 A New Rice Cultivar "Natsunotayori"

水稻新品種「なつなたより」は1993年から鹿児島県で奨励品種に、また長崎県と熊本県で認定品種に採用され普及に移された。ここに本品種の育成経過並びに特性概要を報告し普及の参考に供する。本品種の育成に関し、種々ご高配をいただいた関係諸機関各位に深く謝意を表する。

1. 来歴及び育成経過

本品種は鹿児島県農業試験場(農林水産省水稻育種指定試験地)において1980年に極早生系統の「ふ系125号」を母、良食味系統の「奥羽309号」を父として交配を行い、この後代について4世代の世代促進栽培の後、1984年(F₆)に個体選抜、1985年(F₇)より系統選抜を行った。このうちの1系統を1987年(F₉)以降「か系163」の名で生産力検定試験と特性検定試験、また1988年(F₁₀)に系統適応性検定試験を行った。1989年(F₁₁)からは同系統を「西南89号」の系統名で関係機関で奨励品種決定調査に供試し、この結果、1993年に「水稻農林326号」として農林登録され、また「なつなたより」と命名された。

2. 特性の概要

「なつなたより」の一般的特性を第1表に示した。「なつなたより」は、成熟期が「コシヒカリ」より育成地で約8日早く「ナツヒカリ」並みであり、食味は早期栽培の「コシヒカリ」と同等の極早生良食味品種である。

「なつなたより」の稈長は「コシヒカリ」より約13cm短く「ナツヒカリ」並み、稈質は「コシヒカリ」より強く、耐倒伏性は強い。収量性は「コシヒカリ」よりやや劣る場合があるが、このように耐倒伏性が強い「コシヒカリ」の基準施肥より多肥での栽培をすることにより「コシヒカリ」と同等の収量が得られる。この栽培条件でも食味が低下することはない。玄米の外観品質は「コシヒカリ」より優り、粒形はやや丸く、玄米千粒重はやや小さい。

「なつなたより」はいもち病抵抗性遺伝子 *Pi-t* を持つと推定され、いもち病圃場抵抗性は「コシヒカリ」よりやや強い「やや弱」。耐冷性は「コシヒカリ」より弱い「やや弱」、穂発芽は「コシヒカリ」並みの「難」である。

3. 奨励品種採用理由

近年水稻の早期栽培では良食味品種のより早期の出荷の需要が高まり、極早生良食味品種の育成が望まれていた。また、九州地域の早期栽培では、現在「コシヒカリ」が地域により7割からほぼ全量を占めているため、作業

労力の分散化、また良食味品種のリレー出荷のため極早生良食味品種が望まれていた。

鹿児島県では県土地域での安定的な7月出荷用の品種として本品種を奨励品種に採用し、500haの普及が見込まれる。また長崎県では盆前出荷用に五島南部と諫早地域の一部で200ha、また熊本県では「良食味リレー出荷体制」の先頭品種に位置づけて天草地方を中心にして500haの普及が見込まれている。

4. 栽培上の注意

「コシヒカリ」の基準施肥ではやや低収になる場合があるため、「コシヒカリ」の基準施肥に比べ基肥を増やすとともに穂肥を施すことが望ましい。

近年、各地の早期栽培では早期出荷を目的とした栽培の早進化が進みまた早期栽培地域も拡がっているが、極端な早植をした場合や出穂前後に低温が予想される地域等の栽培適地外で栽培をした場合は、障害型冷害による不稔の発生が考えられるため注意を要する。

第1表 「なつなたより」の一般的特性

品 種 名	なつなたより	コシヒカリ	ナツヒカリ
熟 期	極 早 生	早生の早	極 早 生
草 型	穂 数 型	穂 数 型	穂 数 型
出穂期(月日)	6.25	7.03	6.25
成熟期(月日)	7.27	8.05	7.26
稈 長 (cm)	75	88	75
穂 長 (cm)	16.6	18.3	18.1
穂数(本/m ²)	440	450	452
芒の多少・長短	無	稀・短	無
ふ 先 色	黄白	黄白	黄白
脱 粒 性	難	難	難
耐 倒 伏 性	強	弱	強
穂 発 芽 性	難	難	中
耐 冷 性	やや弱	強	やや弱
いもち病抵抗性			
遺 伝 子 型	<i>Pi-t</i>	+	<i>Pi-t, z</i>
葉 い も ち	やや弱	弱	中
穂 い も ち	やや弱	弱	中
白 葉 枯 病	中	中	
縞 葉 枯 病	罹病性	罹病性	罹病性
玄米重(kg/a)	49.1	49.2	45.7
対標準比(%)	100	100	93
玄米千粒重(g)	20.1	20.3	21.0
玄米の外観品質	3.3	5.4	3.3
食 味	上 の 中	上 の 中	上 の 下
調 査 年 次	1987年~1993年		

注) 播種(平均): 3月18日, 移植(平均): 4月12日。
 特性の分類は「稲種苗特性分類調査表(農林水産情報技術協会)」による。